

27 広島県における食習慣の実態（第4報）

広島大教育 鑑本 温美

さきに広島県における食習慣の実態第1, 第2報として家政学雑誌に, 同じく第3報として第10回総会に発表したものと一貫した研究目的方法によるものである。即ち広島県全公立中学校生徒を層別任意抽出法を用いて sample 958 を得, 質問紙によって得たものを更に推計学的に検討したものである。今回は主に家庭献立への加工食品の滲透度, 中学生による食品及び調理法の嗜好傾向をみたもので, 県下全学区を農業率によって4つの地域に大別し, 更に産業分類によって細別し, 世帯人数との関係に於て上記の諸項目を推計学的に検討したものである。結果は農業率により世帯人員数の分布型は有意差を示すこと, 殆どそのまま食卓に供す加工食品の数値は全県的に差がなく使用されているものが大部分であるが穀類, 魚肉類, 海藻類と油類の使用頻度は農業率により有意差が認められたこと, 中学生の好き嫌いの意思表示は総数では地域差がみとめられないが個々の食品や表現法其他に地域による相違がうかがわれたこと等である。